

人間を単純化するな

齊藤 大馨

人間を単純化して、一段階に考へるのは、大きな誤りを犯すことになる。二十世紀中葉の今日、機械と技術の時代といわれる。多くの人が機械とともに働いている。

これがため機械を利用するはすの人間が、かえって機械に支配されるようになった。と心配する向きもある。いわば技術の目まぐるしい進歩と人間とを一直線上に結びつける考え方がある。しかし、ここに大きな問題がある。

機械の発達が進むに、人間機械化には逆のとは、必ずしもいえない。なるほど影響を受け「人間を失格」するものもあるが、そうならない人も多い。両者の間には、必然性はないように思われる。

たしかに人間の基礎面を見たら、動物に遠くない。もとより人間も生物の一種である。生まれてくることも、死んでいくことも、他の生物と共通である。衣食住の生活に、動物的であることは、何人も否定し得ない。

ではない。高級に進化し、精神的理想を身につけた、本来的人間も多い。動物は動物であつても、ただの動物ではない。動物性を基礎とし、その上層部に高い人間性を発達せしめていく。この精神への進化によって、人間は人間らしい人間になる。人間が本来の人間になるには、動物性を克服し、人間性を高める。人間は十人十色、一人一人が異なる。この考え方は、現代の私どもが存在する諸問題の軌跡として、人間を単純化するの軌跡を一つにする。諸君のうち一番、あたっている面もあるが、一

へ出るに当たっては、暗礁を二時間余りもないと山崎行のバスにのりなかつたような地形上、行政関係を除いた外はほとんど石打方面へ出入りしていた。

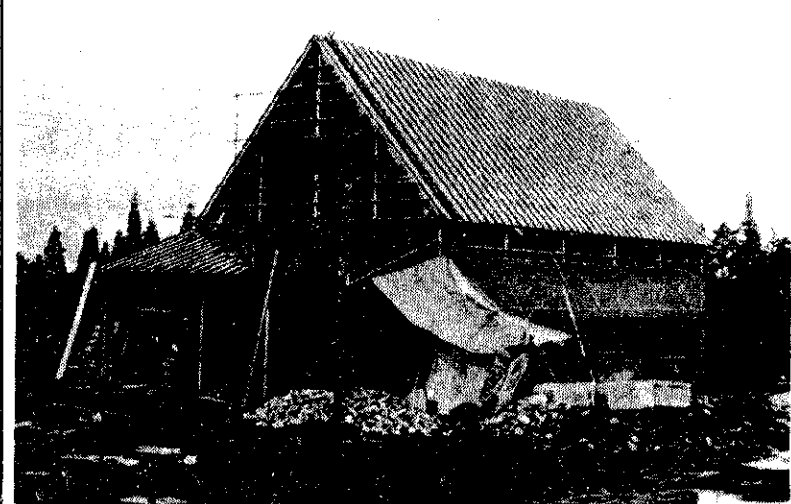
倉下部落から約十五分位登ると二峰山頂がある。南麓は山頂の眺めは素晴らしい。石打、湯沢等の魚沼盆地を一望できる。夏夏の涼風もこの山頂ではのんびりあり、道中から山頂へ入るにつれて、山頂の眺望が、人々から忘れられようとしている姿は、十二工場の完成によって

土倉、倉下部落

沼中魚沼の郡境にあるこの山頂の眺めは素晴らしい。石打、湯沢等の魚沼盆地を一望できる。夏夏の涼風もこの山頂ではのんびりあり、道中から山頂へ入るにつれて、山頂の眺望が、人々から忘れられようとしている姿は、十二工場の完成によって

期待される山村振興法の指定

経済の高度成長の中で、人口が都市に集中し、いわゆる人口の過密化が大きな問題となつていく。一方人口減少のため、防災、教育、保健など地域社会としての基礎条件の維持が困難となり、資源の合理的利用ができず、生産機能が低下している地域、いわゆる過疎地域が大きな社会問題となっている。



完成近いライスセンター

近年、漸次、人口が減少しつつある中里村としては、総合的な過疎対策としてこの機をのがさず、山村振興法の指定に期待したいものである。

焼却出来る「ミ」は 各人で焼却を、経済の成長と共に、「ミ」は都会に多くなり、処理にお互い困っていると思われ、焼却できるものは、必ず各人で

焼却していただければ、他におよぼす迷惑も半減することになります。他の人の手をわずらわさず、身のまわり、家のまわりの廃物を処理し、衛生面にも気分をつけて下さい。

便利な定額小為替

郵便局の定額小為替をご存知ですか。同窓会の会費とか、本代などを送るのに便利です。為替金額は「百円」から「千円」まで百円きりであるほか「二千円」「三千円」と「五千円」「一万円」があります。料金は千円まで十円、二千円までは二十円、三千円までは三十円です。

中里村スキー協会結成 このたび左記の日時において中里村スキー協会を結成いたしましたので、御賛同者は御出席下さい。

一、日時 九月二十四日、午後七時から
二、場所 中里村公民館

もうすぐ完成 ライス・センター

農業構造改善等の本年度事業（六基バケリーナ一基、として、市之越台地に計画されたライスセンター（約乾燥調整施設）は事業実施に際し、事業主体の点で経費負担はあったが、最終的には、村が事業主体となり、丸吉商會が施行し、上山道を登りつめた百二十町歩の台地にその完成も目前に迫っている。

種々の偏見でもある。青少年の非行などの原因は、マス・コミや享樂文明の悪影響が主だろう。まず何よりも家庭における宗教情操、学校における道徳教育、社会環境の浄化などが、集団の急である。

◎産声	
子の名	父の名
重井 雅和	正 市之越
上原 俊之	信 上山
田中 公巳	正 小原
樋口 珠美	房 通山
南 吉和	三 通山
山本 直美	完 小出
樋口 泰俊	和一 小原
羽鳥 匠一	宣 本屋敷
樋口 美代	源 小原
阿部 晃十	徳治郎 本屋敷

◎高砂	
井之川 直人	正 山崎
太田 和人	海 東田
井之川 明	隆 山崎
清瀬 正洋	正 東田

◎昇天	
村山 紀光	田 沢
新井 福雄	三 十日町
新井 宮越洋一	山崎
新井 郷田 洋子	山崎

◎昇天	
氏 名	年令
島田 昌三	倉 俣
松沢 得七	倉 俣
桑原 ハルニ	倉 俣

中里文芸
——九月投句——
村山えつお選
正乃
帝切の兎の第一声さわやかに
(四面へ続く)